

## Topic

1. 「ファーストエイド研修会」 活動報告
2. 研修(実践交流)&忘年会 報告
3. その他 報告

### 1 「ファーストエイド研修会」 活動報告



10月3～4日にかけて、安比高原ペンション「あるぺじお」にて6名でファーストエイド研修会を行いました。キャンプ協会理事の小田島隆さんが消防署とも連絡を取り合い、救命救急士を派遣してくださいました。

た搬送方法など実技を取り入れた研修会でした。

小田島さんの講習が非常に具体的でわかりやすかったと、受講者から声をいただいております。

救急車が到着するまでの間に出来る迅速な手当が、キャンパーの安全を守る上で必要になります。資格保有者の皆さんは、楽しいアウトドアライフのために知っておいて損はないと思います。応急処置について今一度確認してみませんか。



### 2 研修(実践交流)&忘年会 報告

11月28日(土)に県青少年会館(盛岡市みたけ)で実践交流会を行いました。発表者は岩手県キャンプ協会の岡芹さんで、アウトドアチャレンジキャンプに参加して「被災地の子どもたちのキャンプから」という発表内容でした。

岩手県キャンプ協会とボーイスカウト岩手連盟、シェアリングネイチャー協会、レクリエーション協会、国立岩手山青少年交流の家が、それぞれの分野で子どものあるがままの姿を引き出しながら、これからの成長を見守る為に連携をとりあっていました。

東日本大震災からはや5年が経過しようとしています。被災地の復興は滞ったままですが、子どもたちは滞ることなく成長していきます。そんな中、津波の被害を受けた場所から、一時的にでも日常を忘れられる内陸で心の中に潜在意識として残っている被災の恐怖を、多くの大人たちが見守る中で思い切り遊びながら吐き出している姿が印象的だったと話していました。



成果としては、予想以上に子どもたちが集まり、またリピーターも多く、アウトドアチャレンジは効果があっ

たと思われると同時に、課題としてはどの団体からもスタッフ参加が少なく、手厚い子どもたちへの支援が不足していたのではないかということ、いつも同じスタッフで負担が大きかったことが挙げられました。

様々な活動を通じて感じている「人は自然の中に身を置くと、今まで気付かなかった自分に出会える」良さを感じ、自他ともに成長することに多くの実践を重ねられているキャンプ協会のインストラクターやディレクターの皆様のノウハウを共有できるとキャンプ協会の活動がもっと広がる可能性を感じたと話していました。

また、そのあとの忘年会では、キャンプ協会のホームページ立ち上げに携わって下さった方にお礼も兼ねて、20周年事業の成功と今後の30周年事業に向けての抱負等を語りあいました。

### 3 その他 報告

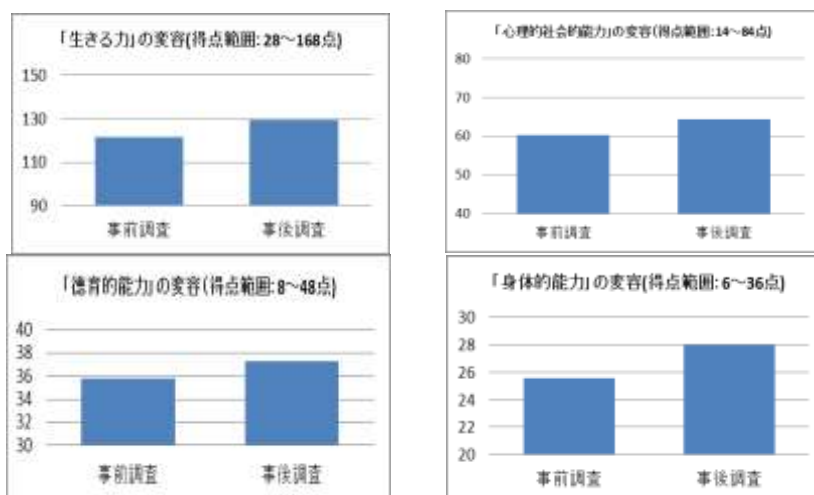
#### ① アウトドアチャレンジ活動報告



11月21～23日に国立岩手県青少年交流の家にて、「体験の風をおこそう」運動推進事業 アウトドアチャレンジ「岩手しぜんとあそびキャンプ in テンパーク」の秋編が行われました。今回でこの事業は最後となりますが、夏編のアンケート結果では事業の有意性が認められました。理事会ではその有意性を共有し、今後、沿岸部でもキャンプ協会独自で継続的なキャンプを続けてはどうかという案が出されました。そのためには、今までのような他団体と一緒にではなくするため、キャンプ協会だけでスタッフ

を募る必要性も挙げられました。

(教育効果の検証) 分析方法：対応のあるt検定



#### ② 青森県キャンプ協会設立10周年記念式典・事務局会議報告

10月17日(土)に青森県弘前市で青森県キャンプ協会設立10周年記念式典が行われ、岩手県からも会長及び副会長が出席しました。そこで、来年は日本キャンプ協会50周年を迎えるにあたり、各県から活動についてワークショップを開催するようということが伝えられました。また、北海道・東北ブロックではどの県でもイントラ参加者の減少が目立ち、今後は事務局レベルで情報交換会を行い、対策を講じることになりました。

#### ③ 北海道キャンプ協会事業(平泉・栗駒山)への協力

10月16(金)～18日(日)北海道キャンプ協会が、平泉見学およびウォーキング、栗駒山登山、須川高原温泉を訪れました。事前視察の際、キャンプ協会の澤村理事長がプログラム策定に協力をしましたが、当日の日程が青森県のキャンプ協会設立10周年と重なったため、平泉ウォーキング協会会長の松枝様をお願いをしました。